

図画工作科 2年C組	見て、見て、ステキでしょう！ —ひらひらを感じて—	北山成美
-----------------------------	--	-------------

1. 題材について

(1) 題材設定の理由

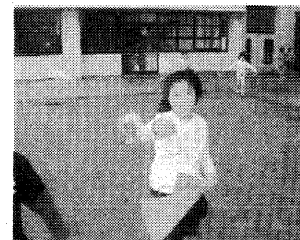
人には誰でも変身願望があり、特に子どもだったら別の誰かになってみたいと思うことも多いだろう。ままごとあそびや、変身ごっこもその1つである。本実践では、低学年の子どもたちのもっている変身欲求を最大限に引き出し、素材とかがかわる中で、自分のお気に入りやこだわりをもとに、表現することに喜びを感じさせたいと考えた。さらに変身した自分になりきり、自分が主人公になってお話の世界で遊ばせたいと考えた。

1学期に新聞紙を使い、全7時間の「あそぶ」「つなげる」「はいる」という造形活動をしている。この取り組みの中でも、新聞紙で衣装をつくり、ピエロになったり、おじいさん、ドラエモン、犬やねこ、虫に変身している子がいた。犬に変身した子は、しっぽや耳、ひげまでつくり、犬になり四つんばいになって歩いていた。そして、「次はねこになる」といって活動をひろげていった。また、9月の終わりにした教育実習生とのおわかれ会で、ハロウィン風のパーティーにして少し仮装をしたところ、帽子や衣装作り、小物作りをととても楽しみ、パーティーも盛り上がった。

変身の楽しみは、いつもとは違う自分になることにより、日常とは違った自分を演出できるところだろう。だから、いつもおとなしい女の子がお姫様のように着飾ってみたり、とても怖いお化けのようなものになってみたりすることにより、普段ではできないような体験、欲求を満たせてあげたいと考えた。

変身の中心素材として今回は、「ひらひら」というイメージから子どもたちが思いつくものにした。「ひらひら」というと、形や材質がひらひらしたものと、動作がひらひらしたものの2種類が考えられるので、子どもたちはどちらで思いつくかな、どんなものを思いつくかなというところに興味があり、探せば、「ひらひら」したものは結構あるのではないかと思ひ素材を「ひらひら」にした。まず「ひらひらさがし」をした。教室の中や外へも出かけていき、落ち葉を拾ってきたり、風に揺れる木の枝や葉っぱにひらひらを感じたり、紙や布、テープを扇風機の風に当ててひらひらさせた。次に「ひらひらあそび」を中庭でした。

テープや布、袋などひらひらするものを思い思いにもち、風の吹く中



庭で、走ったり、回ったりしてあそんだ。その中で、風にたなびくテープの描く線や色のきれいさを感じてほしいし、このひらひらを使って何か造形遊びを思いつかないかなと願い、「ひらひら」を選んだ。

(2) 題材目標

- ・ 布や紙、ビニルなどの素材に興味を持ち、素材と対話しながら自由に発想する。
- ・ 素材を組み合わせて、思い思いの表現方法で変身していくことを楽しむ。
- ・ 変身した自分を主人公とした世界を想像し、思いのままに表現する。
- ・ 自分や友達のよさや、全員の作品を合わせたときの壮大な感じを味わう。

(3) 題材計画 (全8時間 : 本時6 / 8)

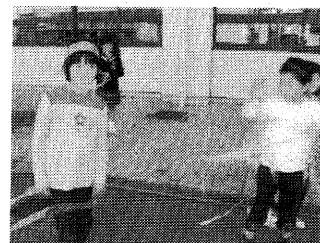
第1次	ひらひらごっこをしよう	… 2時間
第1時	・ひらひらを見つけよう…	1時間
第2時	・ひらひらを感じて	… 1時間
第2次	なりたい自分に変身しよう	… 4時間
第3次	わたしのいたい世界をつくろう	… 2時間 (本時)
第1時	・わたしは〇〇です	… 1時間
第2時	・こんなところにいたら楽しいだろうな	… 1時間
第4次	つなげようぼく、わたしの世界	… 1時間

2. 題材の考察

(1) 互いのまなざしが共鳴する実際の姿は

ひらひら探しや、ひらひらごっこでは、校内で風に揺れる木の枝や草木に気付いて、葉っぱや草を持ってきていたし、教室でも扇風機の風を利用して、テープや紙、ビニル袋をひらひらさせていた。また、布、テープなど思い思いにひらひらするものを持って、中庭に出て風に当たりながら遊んだ。

遊ぶ中で、テープ、布、ビニル袋を頭や体に巻きつけたりと子どもたちは、体全体でひらひらを感じているようだった。



子どもたちはひらひらで遊んだ後、教室で、ひらひら素材を手にとったり、身にまったりしながら、素材の感触や色などを楽しんでいた。そんな中で自分の変身したいものを決めている子は、材料を手にしながらかんどんと変身していく子もいれば、カラービニル袋を気にいって、肩や腰に巻きつけたり、ビニル袋に空気を入れて風船のようにして遊んだりしているが、何に変身したいか決まらず、私に、「そこの青レンジャーたちは、何をしたいの。」といわれていた子どもたちもいた。その間、朝の音読の時間にブームとなった「さ

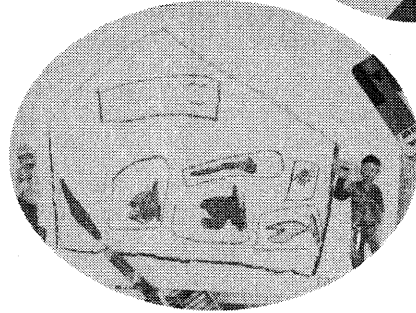
かなやのおっちゃん」にヒントをもらい、次の時間には魚屋さんにみごと変身していた。自分たちが魚屋さんに変身したあとは、魚を作ったりして、最後は、2人と1人に別れてすっかり魚屋さんを満喫し、また他のものにも変身したいと意欲満々にしていた。



ぼくは、きのう図工で魚やさんをほりえくんとしゅうほくんとぼくでやりました。魚やさんをやったきつかけは、「おがわ」の詩しゅうの「さかなやのおっちゃん」というのがきつかけです。ぼくがつくったものは、たこ、まぐろ、マジマジキです。こんどはもっと立体てきにやりたいです。

ひらひらでへんしん

田じりひりや



大きな作品としては、男の子5人でしていただんごやさんは、5人で紙をつなげてだんごをかいたたり、レジを作ったり、看板を書いたりと本当にだんごやさんが開店しそうな勢いが感じられた。

ぼくは、だんごやをしました。だんごが百こいじょうあつたのでびつくりした。みせの中で、じどうはんばいきをかいで、セールのかんばんをかいだ。レシートやレジをつくった。セールだんごもつくった。オープンふうせんもつくった。たのしかった。

へんしんワールド

せばたゆうや



友達と妖精になってお花畑を描いた女の子、お姫様になって住みたいお城を作った女の子、サンタさんになって、プレゼントを作っているところを表現した子もいました。本当はなれないけど、なってみたいお姫様や、いってみたい妖精の国、サンタさんの生活を想像し、自分がそのサンタさんになって、友達とサンタの世界でおもいきり遊ぶことで想像もひろがり、欲求が充分みたされたであろう。さらに、友達の世界にも共感し、今度は自分もその世界で遊びたいと思ったことだろう。



へんしんワールド

土はしきや子

わたしは、ようせいになりました。なぜ、ようせいになったかというと、羽でとべるからです。

でも、みんなのつくったものきれいでした。かなちゃんもつくったどうぶつえんも、すごくきれいでした。

にいなちゃんのしらゆきひめのおしろも、きゆうとか中のふくとかが見えて、すごくかわいかったです。作って楽しかったです、おもしろかったです。

このほかにも、にわとりやだちょう、ももたろう、野球選手、王様や戦士になって戦いをした子、死神になった女の子もいました。インド人になった女の子はお父さんが仕事でインドに単身赴任をされていて、インドの好きなところと嫌いなところがあり、自分なりに感じたインドを表現していました。

3. 成果と課題

実際になってみたいがなれない憧れのお姫様とか王様になってみた子、そして、王様に変身した子は、すごく長い白い布にテープなどいろんなひらひら素材を貼り付けてマントを作り、それを身にまとい、住みたい行ってみたい世界では、ピラミッドと東京タワーと、凱旋門がくっついたロケットに乗って旅行しているところを表現した。この子の場合は、ひらひらからマントをおもいつき、王様に変身して、実際にはありえない、3つの大きな建造物をくっつけたロケットに乗り旅行という壮大なまさに夢の実現をしたところに、十分に想像性が発揮され、欲求も満たされ、まるで自分も世界旅行をしたかのような楽しさも味わえたのではないだろうか。そして、その絵をみて説明を聞いているクラスメイトもその気分を味わえたと思う。ここに、共感と共鳴があるのではないだろうか。

課題としては、まだまだ変身が続けたい子もいて、その子たちには、十分な変身欲求も満たしてあげられないまま、変身した自分のいたい世界を創造させることになり、教師が引っ張りすぎたところもあったと反省する。また、立体にした子も何人かいたが、変身した自分が劇化して表現したい子もいたのではないかと思われる。でも、全員の変身していたい世界を壁面に張り、お互いに紹介しあったので友達の思いも解り、共感、共鳴でき、また、その世界を迫体験し、楽しめたのがよかったと思う。

それと、ひらひら遊びから変身へ流してきたが、実際ひらひらを自然な形で変身に結びつけられたかが疑問である。素材をひらひらに限定したほうが、イメージをもちやすいと考えたが、素材を限定しないほうが自由度があり、変身の幅もひろがったのではないかとも考えられる。

この後、子どもたちが望んでいた劇化をなんとか実現したいを思っている。